

2021 年度 第 1 回愛知県総合教育会議 議事録

日時：2021 年 6 月 15 日（火）16:30～17:30

場所：愛知県本庁舎 6 階 正庁

【県民文化局長】

ただ今から、2021 年度第 1 回愛知県総合教育会議を始めさせていただきます。

それでは、大村知事より、御挨拶を申し上げます。

【知事】

皆さんこんにちは。愛知県知事の大村です。

本日は、お忙しい中にも関わらず、2021 年度第 1 回愛知県総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この総合教育会議は、私と教育委員会とで、教育政策の方向性を共有しながら、緊密に連携して、愛知の教育の更なる充実を図るために設置したものでありまして、これまで多くの御意見をいただいていたところですし、また、御意見を踏まえて、教育施策を進めさせていただいているところでございます。

昨年度は、「教育に関する大綱」の策定について御議論をいただきまして、本年 2 月に、本県の教育に関する目標や施策の根本となる方針として、2021 年度から 2025 年度までを対象期間とした、新たな「愛知の教育に関する大綱」を策定したところでございます。

また、この大綱と併せて、本県の教育振興基本計画として「あいちの教育ビジョン 2025」を取りまとめております。本年度から、この大綱と教育ビジョンを教育委員会との間で共有して連携をとりながら、愛知の教育の更なる充実に取り組んでまいりたいと考えております。

本日は、大綱と教育ビジョン策定後初めての会議でありますので、計画の初年度である本年度の主要事業について議題とさせていただきます。

教育ビジョンを実現し、愛知の教育を更に充実させていくためには、知事と教育委員会とで共通の認識を持つことが必要だと考えますので、委員の皆様方には、忌憚のない御意見をお願いしたいと思います。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

【県民文化局長】

本日の出席者につきましては、お手元の名簿と配席図をもって代えさせていただきます。

なお、本年 3 月、教育委員に就任されました、度會秀子様は、初めて御出席をいただいております。よろしく願いいたします。

それでは、ここからの進行は、大村知事にお願いいたします。

【知事】

それでは議事を進めてまいります。その前に、先ほどの挨拶で、新型コロナウイルス感染症について申し上げるのを失念いたしました。今日も、午後3時40分から記者会見をしております。愛知県は98人ということでした。

ということで、愛知の感染者数は、ステージ1、2、3、4となって、4のレッドゾーンから、今、2まで減ってきております。大変喜ばしいことではありますが、ただ、一方で、入院患者さんは750をちょっと切ったところですね、ようやく、ステージの4のレッドゾーンからオレンジ、ステージ3になったということでありまして、まだまだ状況的には厳しいということ。

それから、ワクチン接種は、本格化をしてきておりますが、65歳以上の高齢者だと、愛知県は43%を超えており、人口の多い10都道府県を並べてみますと、愛知が一番進んでおります。

実際の数字はもっと上がっていると思います。ですから、今月には、どんどん一般の方に切り替わってまいります。

まず、子供たちに相対する保育園の保育士さんと、幼稚園の幼児教育教職員の皆さん。この方々が、それぞれ、3万5千人と、5千人いるので、4万人の方をまず優先して打つてくれと。そういう通知は出しました。

その後は、小中高の学校の教員の皆さんにも先に打ってもらうという通知も出させていただきました。市町村でどんどんやっていただきたいと思ひますし、県の大規模接種会場も用意しましたので、そこもどんどん来ていただければ、どんどん打つという形でやっていきたいと思ひます。

いずれにしてもですね、日々、コロナ感染防止対策に全力で取り組んでいただいている、学校現場の皆さんには、心から敬意と感謝を申し上げたいと思っております。

何としても感染を防いで、学校教育を、引き続き、今年度は何としても、去年みたいな、最初の2か月なしということではなくて、何としてもやっていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

すみません、コロナ感染症についても触れさせていただきました。

それでは、議事を進めます。

まず、お手元の資料について、事務局から説明をいたします。

【教育委員会事務局長】

事務局長の横井でございます。

A3判の資料「2021年度教育行政の主要事業等について」というタイトルの資料に沿っ

て主な取組を説明いたします。

すみません、座って説明をさせていただきます。

まず、資料の1ページを御覧ください。左上冒頭の囲みには、大綱にも掲げている「あいちの教育ビジョン2025の『基本理念』」を記載してございます。以下資料には、基本理念を踏まえて取り組むべき「基本的な取組の方向」と施策のうち、主なものをまとめてございます。

まず、基本的な取組の方向1の施策の一つである、「①主体的対話的で深い学びの推進ときめ細かな指導の充実」についてでございます。

小学校第1学年、第2学年及び中学校第1学年で実施しております、35人学級を、今年度は本県独自で国に先行して、小学校第3学年に拡充をいたしました。

次に、「②情報活用能力の育成とICT活用教育の推進」では、モデル校による研究を推進するとともに、その成果の普及に努めるなど、ICTを活用した教育を進めてまいります。

次に、資料右側の「④多様な学びを保障する学校・仕組みづくり」について、工業高校の「工科高校」への校名変更や学科改編など、時代の変化や生徒の多様なニーズを踏まえた魅力ある学校づくりを進めてまいります。

また、公立高等学校入学者選抜制度を改善するとともに、少子化などに対応するため、全県的な学校配置の具体的な構想を検討してまいります。

次に「⑥特別支援教育の充実」について、本県初となる知的障害と肢体不自由の児童生徒に対応する「にしお特別支援学校」の2022年度開校を目指し、建設工事を進めてまいります。

また、そのすぐ下ですが、県立東浦高校の敷地内に、幼稚部及び小学部に対応した聾学校の分校を設置することとし、2023年度の開校に向けて準備を進めるほか、県立農業大学の校地へ移転する岡崎特別支援学校につきましては、2024年度の開校を目指し、準備を進めてまいります。

資料の2ページを御覧ください。基本的な取組の方向2の「②いじめへの対応の充実」及び「③不登校児童生徒への対応の充実」について、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を拡充するほか、高校生を対象としたSNSによる相談体制の整備など、教育相談体制の充実を図ってまいります。

次に、基本的な取組の方法3について、資料右側の二つ目「③学校体育・生涯スポーツの充実」では、子供の体力向上に向けたコンテンツをまとめたWebページを立ち上げるほか、体力向上運動プログラム動画を作成するなど、愛知のスポーツの振興に取り組んでまいります。

次に、基本的な取組の方向4について「①社会の担い手の育成に向けたキャリア教育の推進」では、キャリア教育コーディネーターの活用や就労アドバイザーの配置・拡充など

により、より効果的なキャリア教育を実施いたします。

資料3ページを御覧ください。基本的な取り組みの方向5の「②日本語指導が必要な児童生徒等への支援の充実」について、小中学校への日本語教育適応学級担当教員や県立学校への外国人生徒等教育支援員の配置を拡充してまいります。

次に、基本的な取組の方向6について、「①学校における働き方改革」では、eラーニング研修やオンライン研修を実施するほか、休日の部活動の段階的な地域移行に向けた実践研究など、長時間勤務の解消に向けて、教員の負担軽減を図り、質の高い教育を持続的に行うための環境を整備いたします。

また、資料右側の二つ目「③学校施設・設備の充実」について、「県立学校施設長寿命化計画」に基づく、老朽化対策の実施や、トイレの環境改善などを引き続き実施してまいります。

最後に、基本的な取組の方向7の「①大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障」について、民間学習支援サービスを継続して利用するほか、児童生徒用・教員用パソコン・タブレット端末を継続して整備してまいります。

説明については以上でございます。

よろしく申し上げます。

【知事】

はい。それでは、各委員さんから御発言をお願いしたいと思います。
まずは、伊藤委員さんお願いします。

【伊藤委員】

お忙しいところ、今日はどうもありがとうございます。

それでは私から、まずお話をさせていただきます。

私どもは、今回のあいちの教育ビジョン2025について、それぞれが自分たちの立場で考えてまいりました。そして、魅力的な学校というのはどういうものだろうか、という切り口で考えたことを私どもの中で話し合い、準備をしてきました。

その中で、私は魅力的な学校というよりは、今、最も懸念すべきというか、深刻な問題は何かということについて、昨年、「若い人たちの自死が非常に増えた」ということをお話しします。

これは昨年9月に緊急記者会見で知事さんが、自殺について県民の皆さんに話しかけられた、ということがありましたけれども、あの8月の段階では、高等学校での自死や自死・自殺企図の報告の累積数が前の年の1年分の数字に達してしまっていました。非常に早いペースで昨年は自死が増えました。

これはやはり、10代の人たちの学校関係の自殺が増加するのが長期休業明けということ

が非常に懸念されているわけですが、昨年は4月の最初の頃、学校が休校になっていたため、その休校明けが6月にあったということで、数字が動く時期が通常の夏休み明けと合わせて2回ありました。6月と9月で2回やってきたというようなことがあって、そこで非常に早いペースで報告が上がってきたと考えられました。ですから、9月を通り過ぎたら落ち着くだろうかというような期待で見えておりました。

けれども、やはり今年度の国全体の速報値で見ましても、ここでは公表されていないことですので、個別の県のデータについては申し上げませんが、県内でも、若者の自死についての報告は減りませんでした。その理由をデータで見ると、昨年の高校生の自殺の理由の中で、主なところとしては、「学校関連」が40%近くです。ただ、原票の中で自殺の要因というのは、三つまでカウントができることになっていますので、必ずしもその「学校関連」だけではなくて、若い10代20代の人、あるいは、カテゴリーをみると、「生徒・学生等」、「無職の人の中の生徒・学生等」という人たちの自殺の理由の中には、「健康理由」とか、「家庭環境」、「家族に関すること」なども上がっています。

ただ、自死の「要因が不明」が3割あるということを考えますと、学校関連の事例というのは非常に多くて、その中の進路に関する悩み、入試を含む進路に関する悩み、学業不振などを合わせてみたところ、非常に大きな数字になります。愛知県は昨年度、国全体で2万人ちょっとの自殺件数がある中で、数字があるところで、1,172人という数字が上がっているのですが、その中の「生徒・学生等」に当たる人たちは70人くらいです。ここで、割合として学校関連というのは非常に大きなウェイトを占めています。

新しい大綱の中で、その政策がどこに当たるかと言いますと、基本的な取組の方向の3というのが、「健やかな体と心を育む教育を充実させ、生涯にわたって、たくましく生きる力を育む」ということで、高校生が何としても健やかに、この何とも言えない不安感、生活全般を覆っているような不安感を克服して、何とか切り抜けられるような方向に、打てる手を打っていかなければいけないと考えています。

そのためには、まず、スクールカウンセラーの配備です。それから先ほどの事由の中で、学業だけではなくて、やはり家族関係や友達関係といったことが上がっている以上、スクールソーシャルワーカーとの関係や、様々なところに目配りが必要だろうと思います。

報告が上がってくるたびに、どうしたらいいのだろうと胸が痛みます。やはり学校関連で悩んでいる方は、真面目な方ほど、試験の当日の朝や、結果が出る直前にということがあります。それが必ずしも成績の悪い方ではなくて、周囲の学校関係者にも、御家族にも分からなかったというケースも多いのです。であるからこそ、いろいろな場面で、全員で目を配り、対策を考えていかななくてはと考えています。

私の方から少しイレギュラーなお話になりましたが、以上になります。

ありがとうございます。

【知事】

ありがとうございました。

心の問題とか、コロナ関連ですね。思うようにいかないということなので、子供たちも、ストレスを抱えているのは事実だと思います。

ということなので、そうしたストレスについて、悩みについてしっかりと対応していくということで、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーの配置、拡充など、相談体制はしっかりとやっていきたいと思っております。

そして、最近ではやはり、ネット、SNSでのいろいろないじめ、誹謗中傷がありますし、子供の世界でも無縁ではありませんのでね、そうしたものはしっかりとチェックをしていかなければならないと思えますし、一方でSNSによる相談体制もきめ細かく整備をしていければと思っております。

なお、これは、教育という話に限りませんが、この6月の議会、今度の17日の木曜日から、6月定例議会が始まりますが、そんなに大きな予算ではありませんけれども、このコロナ禍で、様々なネットを使ったですね、誹謗中傷から何から、差別のようなものが増えているのは事実なので、それを専門の業者さんに委託をして、県の職員がチェックをする。

今までも例えば部落差別のようなものはやっていたんですけど、それをさらに広げてですね、いわゆるヘイトスピーチだとか、あと障害者差別だとか、LGBTの差別だとか、いろんな差別、人権侵害についてのネットモニタリングをやる予算を、今回出させていただいておまして、そういったものを使いながら、本格的にやろうと思うと、もっと大きな規模の大きなものを作らないといけないと思えますが、まずは試行的にやってみようと、そういうことをやりながら、どういう対応ができるかというのは、しっかりと検討をしていきたいと思っております。

いずれにしても、こういう時だからこそ、子供たちに寄り添った教育ができるように、しっかりと進めていきたいと思っております。

ありがとうございました。

次は、度會委員、お願いします。

【度會委員】

お願いいたします。

子供たちのストレスに、少しでも対応できればいいなと思ひまして、企業経営の目線からお話をさせていただきます。

地元の私立高校に通う生徒さんの話ですけれども、年に1、2回ほど、インターンシップとして受け入れる機会があります。普段生徒さんは、同級生や、周りの大人は先生と家族だけという環境の中から、突然職場に入り込んで、人と挨拶をしたり、受入先のルールを守りながら、与えられたテーマに沿って作業や仕事をする、そういう経験をされます。

弊社の場合、2名ほど、わずか2日間ですけれども、一緒に過ごして、終了時に一言話してもらいます。そのときに、目指す業務を達成して充実感を得たとか、仕事に対する前向きな気持ちを持たせたなどと話してくれるその様子から、成長を感じることがあります。

生徒の将来を考えて、周りの大人ができることをする。その趣旨のもとに、地域の企業や施設も良心的に門戸を開く。そんな社会が広がっていくといいなというふうに感じております。

県立高校の生徒さんも職業科のみならず、地域に触れ合う、そんな機会が増えたら、孤立を防いだり、視点を変える、そんな気持ちになれて、将来の職業観や進路選択にも繋がっていただけるのだらうと思います。

次の社会の担い手となる高校生の健全な育成のために、教育の一環として、地域に開かれた学校として、県立高校が機能していける。そんなふうに、私たちは高めていければと感じております。

以上でございます。

【知事】

ありがとうございます。

公立高校、県立高校の生徒さんのキャリア教育を支援する、キャリア教育コーディネーターを県立高校に配置し、そうした方を活用して、インターンシップなどの受入先も開拓をしておりますし、そういったインターンシップ等に参加する生徒さんが増えていくようにしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

また、今後はですね、就職希望者の多い専門学校、専門学科だけでなく、大学進学希望者が多い普通科においても、アカデミックインターンシップといった、社会と触れ合う機会を作っていけるように、取り組んでいきたいと思っております。

なお、就職希望者の多い、県立守山高校や幸田高校においても、企業連携コースというのを、来年度から設置するということですので、そういった形で、地域と産業界との連携をやっていければと思います。

とにかく、高校生は勉強やスポーツ、クラブも大事ですけれども、地域との交わりというのも大事だと思いますので、そうした機会が持てるように、しっかりとやっていきたいと思っております。

ありがとうございます。

それでは、塩谷委員お願いします。

【塩谷委員】

よろしくをお願いします。

改めて教育の難しさと、大切さを痛感しているこの頃ですが、高校を選択し、そして、

入学する前に自分の将来の姿を、どんな仕事に就いているのかということ、明確に思い描いている子供たちは、本当に一握りだと思うのですが、知事は、この政治の世界に入ろうと御決断された、何か転機となった時、志そうと思われたのはいつ頃でしょうか。

【知事】

いつ頃と言いますか、私は大学の時に、公の仕事をしたと思ったので、国家公務員を志望いたしましたが、それをやっている間に、やっぱり霞が関の官僚ですけれども、日本は議院内閣制なので、国会とのつながりが非常に深いので、日本の、国のグランドデザインを作るのは政治だということで、政治家を志望したということですね。

【塩谷委員】

ありがとうございます。

昨年でしたか、88歳の男性の方が31年かけて高校を卒業したという記事を見たことがあります。学ぶ年代、学ぶ時というのは、人それぞれ違う理由はあるとは思いますが、その方は、家庭の事情で、高校2年生の時に、学校を辞めざるを得なかった。そういう事情があることは別として、子供たちが、未来が見えない一つの理由として、興味が湧くものが、わくわくするものが見つけれないということだと思います。

以前、ゆとり教育という時代がありましたが、本当のゆとり教育は、小さい頃からたくさん選択肢を与えてあげるのではないのかなと思っています。たくさん経験をして、その中で自分に合ったもの合わないものを見つけながら、興味を持つものに深く掘り下げて勉強を重ねていく。そんなことが大事なのかなと思います。本来なら小学校・中学校の時代に、もっと本当に小さい時に、そういうものが何となく少しでも見つかるといいのかなとは思ってはいるのですが、高校に入る、入ってもまだそれが見つからないとなると、先ほど度會委員がおっしゃったように、社会にすぐ出て行く準備ができていない。

何でもそうだと思うのですが、机上の勉強だけでは、その実感というものが湧かなくて、それを実践して失敗して、また新たに興味が湧く。そんな繰り返しやはり大事なのではないかなと思います。

そして将来的に、これは可能かどうかわかりませんが、愛知県の県立高校全てを一つと考えると、自由にその高校を行き来できるというか、そういうシステムになったら、もっと楽しく、何か思うだけでもわくわくするような気がします。

それは恐らく難しいとは思いますが、一つの高校でも、例えば入った時に文系を選んだから、それを3年間続けなければならないのではなくて、自分は半年やったのだけど、やはり理数系の方が向いていると思ったら理数系に行き、またそこで勉強を深めていく中で、やはり文系だと。そういう柔軟性を持った高校を作ってもいいのではないかな。今、総合学科では、それが一番近いような内容で教育されているとは思いますが、そういう高校が

県立の一つの魅力としてあげてもいいのではないかなと思います。

とにかく、子供たちが意欲的に何かをすることを自発的にできるような学校というものを目指すのがいいのではないかなと思うのですが、知事のお考えをお聞かせください。

【知事】

今、ありましたように、子供たちが意欲的に自発的に何かチャレンジする、トライできるというのがいいのではないかと。まったくおっしゃるとおりだと思います。

確かに、高校に入る前に、自分は将来こういう仕事を、こういうことをやりたいということが決められる、ある程度見据えられる人は、中にはいると思うんですね。それは、幸せなことだと思いますけど、普通はそうではないと思いますね。普通は、世の中のことは、分かりませんもんね。

そういう意味で、幅広くいろんなことにチャレンジできるコースと言いますか、トライできるコースというのは、常に考えていくということではないでしょうか。

今は、愛知県の場合、普通科高校だと、基本は、多くの子は進学しますので、そういった形での、大学とか専門学校に行ってから、そこで進路を選んでいくことになると思いますが、工業高校、商業高校の子供たちも、今は、結構進学率が高いということなので、そういった道というのはあるのだろうと思います。

この高校のこの学科だから、こういう方向でなければならないということはないと思いますのでね、いろんなことに興味を持って、いろんなことにチャレンジしていただける、そういった形での弾力的な、指導をやっていると思います。

何というか、子供たちの個性とか特性に寄り添って、個性、特性を伸ばせるような教育が大事だと思いますので、そういった形で、しっかりと取り組んでいければというふうに思っております。

それから、先ほどの話にも関連すると思いますが、やっぱり、中学生、高校生といっても、なかなか世の中と、社会と触れ合う機会は多くないと思いますので、社会とか、地域とか企業とか、そういったものを見ていただく機会を増やすのも大事なかなというふうにも思いますね。

そういった形で、いろんな見聞を広めて、そして子供たちの個性、特性を伸ばしていただけるような教育を心がけていければなと思っております。

ありがとうございます。

それでは、次は佐々委員をお願いします。

【佐々委員】

本日はこうした機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど伊藤委員からもお話がありましたけれども、私もこのところ、高校生の自殺が大

変多くなっているように感じまして、そうした御連絡をいただくたびに、非常に胸が締め付けられる思いをしております。

理由は様々であるかというふうに思いますけれども、統計によると約半数が学校問題ということで、その学校問題の中でも、半分を占めるのが、先ほど知事も言われました、暴力とか、SNS上での誹謗中傷、差別、偏見などによる、身体的・精神的いじめであるということです。

また、コロナ禍ということもありまして、相談できる友達とかがまだできていない状況であったりすると、それも自殺とかを助長していることになっているのかもしれない。

そうした非常に悲しい出来事を、どうしたらなくすことができるのかを考えた時に、現在行っているとは思いますが、道徳教育を充実させていくことが、その一助になるのではないかと私は考えております。

本来、「いじめをしてはいけないよ」とか、「身近にいる人には親切にしようね」とか、「友達と仲良くして助け合おうね」とか、そうしたことは、日常生活の中で親とか祖父母とか、近所の方とかから、自然に教わって身に付いていくことではなかったのかなど。自分たちはそういう環境下で、そういったことを身に付けていったのかなと思いますけれども、昨今ですね、やはり核家族化であったり、共働き家庭も非常に多い中で、今後、コロナ収束後もですね、やはりそうした温もりを感じられるような、人との関わりっていうことが、どうしても少なくなっていくということが想定される中で、道徳心を培っていく場面も少なくなっていくのかなと想像するわけです。やはりそこは、学校で今一度、道徳教育をさらに充実すべきではないかなというふうに、私も思っております。

今後、道徳教育の充実を図っていくということでもありますけれども、その辺りを大変御期待を申し上げるところでございます。

それと少し話は変わりますが、ゴルフのマスタースで松山選手が優勝をした時に、キャディの早藤さんという方が帽子を取ってコースに一礼したということが、世界では大変賞賛をされておりました。

どうしてそういうことで賞賛されるのかなという違和感があったのですが、日本人であれば、特にスポーツをやられている方というのは、スポーツを通してそうしたことを身に付けて、自然にできることなのかもしれませんけれども、世界からすれば、それは当たり前ではないということなのかな、というふうに思います。

そんな世界に誇れる日本人になっていくためにも、勉学と同じくらい道徳教育というのは大切なことなのではないかと私は考えておりますけれども、大村知事は今後の道徳教育のあり方についてどのようにお考えか、お聞かせ願えたらと思います。

【知事】

ありがとうございました。

まず、やはり、子供たちの学校現場で、いじめだとか差別とかそういったことが、特にネットでの偏見とかいろいろなことが、厳然としてあるのは事実だと思います。

それは、やはり徹底的になくしていけるように努力をしていかなければならないと思います。だから、学校現場もそうですし、我々としても、これは人権全般ですけども、改めてこういう時だからこそですね、ネットモニタリングを含めて、一番ネットとかが、典型的に出てくるので。正直、一番対応がしにくいところでもありますのでね。ですからそういったことをどんどんやってみて、教育現場、学校現場でも、そういうことでやれることがあればということで、取り組んでいきたいというふうに思っております。

そういう中で、やはり佐々委員が言われたように、やはり子供たち同士が、お互いに尊重し、思いやり、お互いに仲間を大事にしていく。それから、全て一人一人が個性を持った違う人間なんだということを思い、尊重していくということ、子供のうちから身に付けてもらうということが必要だと思いますね。

やはり、愛知県でいえば、外国人の子供が非常に多いのでね。たぶん日本で一番多いのだらうと思いますけれども、外国人の子供たちに、日本語教育は、もちろん、我々一生懸命やっておりますが、合わせて、いろいろな多様性があるんだと、世の中にはと。

どうも人間というのは、見てくれが違ふと、排除していじめようということが起きます。

子供の世界では、子供たちは、そういうのは、あまり悪気がなくやりますから、そういうことはいかんことだよということを、小学校、中学校からしっかりと教え込んでいくということが必要だと思いますね。

やっぱり、これだけ外国人の人たちが増え、いろんな格好の人たちが増え、国籍、文化、習慣、性別、世代、いろんな違いがあるということを認め合って、お互いを尊重していく、そういう教育というか、そういったことをしっかりとやっていくことが必要ではないかと思えます。

そういう点では、道徳教育の推進ということも、一貫だと思っておりますので、研究指定校というのを作って、高校が8校、特別支援学校が2校、県の場合ですからね。指定をして、授業方法とか評価の在り方なども研究しながら、道徳的価値の理解、それから、道徳教育といったものを進めていく。

外国人の子供たちとか、障害のある子供たちと交流しながら、お互いの多様な価値観を認め合いながらやっていくということが必要なのは明らかなので、それを進めていければというふうに思えます。

特に、最近では、スポーツの世界で、ここのところ、ゴルフで松山選手がマスターズで優勝して、全米オープンでね、笹生選手。彼女は21歳でしたっけ、19歳か。

高校は、通信教育、三重県の志摩にある学校なんだね、通信教育。ずっとゴルフやってね、フィリピンでね。お母さんのところで、お父さんと一緒に。

そういう意味では、ここのところ、大坂なおみさんの優勝とか、2年前のラグビーワー

ルドカップの日本チームだってね、ワンチームでね。ダイバーシティを認めないなんてあり得ないことです。そういう形で、皆どんどん活躍してくれる。そういうのを皆で応援していかなければいけない、そういうふうに思いますね。

ただ、現実はなかなかそうではないということは、厳しく見つめながらね。

バスケットの八村選手の弟さんが、こちらの大学にいるのかな。ネットに嫌がらせの書き込みをいっぱいされていると言ったら、本人が「そんなの俺は毎日だ」と書き込んだと。

それが残念ながら、厳しい現実だと思います。でも、そんなのはですね、絶対認めない、絶対に許さないということで対応するという事ではないかと思えます。

よく言われる、これだけのネット社会になって、コロナになって、でも、莫大な利益を上げて儲けているのが、アメリカのネット企業です。更に差が広がると。「GAF A」プラス「マイクロソフト」の5社が時価総額を更に上げ、売り上げ利益を倍増ぐらいにしている。ますます差が広がっていく。それはそれで、是正措置をやらないといかんのでしょうけど。そのネット企業を作ったアメリカのシリコンバレーでは、成功の秘訣というか、掟というか、鉄則があるんだというのは、よく言われるんですね。私もそのとおりだと思います。

一つはダイバーシティですよ。誰でも良い、能力あるやつは世界中どこからでも来いと。

人種も国籍も宗教も言葉も見てくれも関係ないと。とにかく世界中から頭脳が集まってきて、勝手に切磋琢磨して、勝手にビジネスを立ち上げてやっていく。

ダイバーシティ。それから女性ですよ。まあ、ダイバーシティと一緒にだと思えますよ。女性の活躍。

三つめがスタディですね。学校だけではなくて、とにかく死ぬまで勉強すると。

常に考えて勉強していく。この三つが鉄則だと。

それが一つでも欠けるところに、人なんか来ないと。

人を差別するようになるところに、誰が行くかということですね。

ちょっと前に、平田オリザさんと二人でお話をさせていただく機会がありましてね。平田オリザさんがはっきりと、多様な人が集まるところが発展すると。そこに世界中の企業が投資すると。

それがダイバーシティ。人種のるつぼみたいなところとか、LGBTの多いところに人が集まってきている。それがアメリカのサンフランシスコ、シリコンバレーだと、そういうふうに言い切っていましたけれど。それから、シアトルもそうだな。

そういう多様性を認め合うことができる、そういう教育をやっていかなければならないと、そういう事ではないかと、そういうふうに思っております。

ありがとうございました。

それでは、岡田委員、お願いします。

【岡田委員】

私からは、基本的な取組の方向1の、「多様な学びを保障する学校・仕組みづくり」につきまして、県立高校を魅力ある学校にするためにどうしたらいいのか、自分なりの思いを述べさせていただきたいと思います。

令和3年度の公立高校入学者選抜第2次選抜の志願者数を見ました。公立高校の役割として、多少の欠員に一喜一憂する必要はないとは思いますが、さすがに募集人員2,693人に対して、志願者数が21名。これはちょっと深刻な状況にあるなということを感じました。事実、全日制の県立高校159校の半数以上が、何らかの形で定員割れをしています。

これは愛知県だけの問題ではありません。全国的に広がっております少子化が大きな理由でありますし、こうした時代の変化によって制度を柔軟に変えていく必要があるかと思えます。

現在行われております、複合選抜制度。これは子供たちに、複数のチャンスを与えることができるという、愛知県独自の画期的なシステムでございまして、愛知の公立高校志向が維持されてきたことは確かでございますけれども、やはり少子化など、社会の変化によりまして、制度疲労が現れてきております。これからは複合選抜の良い点は残しながらも、問題点の改善に向けて進めて欲しいと思えます。

定員割れの原因として、私立高校の人気というのも大きな理由の一つではないかなと考えています。入学して欲しい生徒の多くが私学に流れるということで、言い換えますと、私立高校の魅力に県立高校が負けているということではないかと。

私学の魅力は何かと言いますと、言うまでもなく、独自の建学の精神でありますとか、教育理念に則った教育方針があります。その教育方針が家庭の方針と合致しておりましたら最も望ましいわけでございますが、私学の魅力はそれだけではございません。充実した施設・設備、ICT環境、大学附属の高校であれば、大学受験の心配をせずに部活や学校行事に全力投球できる、そんな魅力もあります。学校のカリキュラムも、学校の裁量で柔軟に設計されておりますし、それぞれの学校らしさが反映され、やりたいことが明確な生徒にとりましては、理想的な環境ではないかとも思えます。

それならば、県立高校も私立高校のように独自の学校運営をしたらどうかと思えますが、公立高校、県立高校には多様なニーズに対する受け皿となる役割があらうかと思えますので、そう簡単ではございません。しかし、可能な限り柔軟に改革を進めていくことで、県立高校の魅力を高めることはできると思っております。

生徒や保護者の多様なニーズに応えるという意味では、一つの例ではございますけれども、今、小中学校で急増しております不登校児童生徒の受け皿となるような、不登校特例校の設置でございます。今、多くの不登校生徒の進学先は、一部の私学、それから専門学校でございます。不登校の子供たちが、環境が変わったということで、生き生きと学校生

活を送っているという話をよく聞きます。この4月、知事さんは御存知かと思いますが、岐阜市で不登校特例校として草潤中学校が開校いたしました。中学と高校の違いがございませけれども、フリースクールだけに任せるのではなくて、不登校の悩みに手厚く対応するのも、県立・公立の役割じゃないかなということですよ。

加えて、魅力ある学校は魅力ある教員が作る、というふうに言われます。魅力ある教員の確保、これが不可欠でございます。その意味で、今回教職員課が制作をしました、愛知の教員の魅力について発信するパンフレット。これは、見ておりました大変わかりやすく、愛知の教員の魅力がつぶさに出ておりました。

ぜひこれをキャリア教育、それから進路説明会の啓発資料として有効に活用され、魅力ある先生方がたくさん採用されることを期待しています。

いずれにいたしましても、県立高校と私立高校がそれぞれの特色、役割を生かしながら、愛知の教育を充実させるということが理想でありますので、まずは県立高校が魅力ある学校づくりを進めるしかないと思っています。

そこで、知事さんにお尋ねをしたいと思っております。これからの県立高校はどうあるべきか、そのお考えを聞かせていただきたいと思っております。

以上です。

【知事】

御質問を何点かいただきました。

一つはですね、今やはり、私学の授業料がですね、ちょうど昨年の入学者ですので、2年目ですけど、県としてもだいぶ頑張って、年収720万円のところまでですね、授業料無償化だし、入学金もですね、実質ただと。無償化というか、20万円支給するというようにしたので、それでもって、劇的に子供たちの志向が変わったというのは事実だろうというふうに思っています。

ということで、私学の方は、愛知県でも、ちょっと郊外だときつい所もありますが、名古屋市内だと私学は子供たちが集まってくると。こういうことに今なっていて、逆に言うとそれに引っ張られる形で、県立高校、公立高校ですね、なかなか厳しい状況で、定員割れが起きていると。やっぱり交通の便が厳しいところ、それから、特に、名古屋周辺の尾張部で欠員が出ていることは事実でありますので、そういった点は、しっかり現状を分析して、原因を分析して、検証をして、魅力のある学校づくりをやっていくということが必要だと考えております。

そういうことでありますので、この4月から工業高校を工科高校というふうに変更し、学科改編を行わせていただきましたし、また、瑞陵高校とか岡崎北高校に理数科を作ったり、守山や幸田高校に企業連携コースを作ったり、城北つばさ高校を総合学科へ改編するなど、時代の変化を踏まえた、改編、改革をやっていきたいと思っております。

また、御提案のあった、不登校特例校、これも、ニーズをしっかりと受け止めて、検討してみる必要があるかなと考えます。

そして、複合選抜入試制度についても、第二次選抜が、基本的にほとんど手が挙がってこないということですので、これはやはり、少し見直しをしないとイケないかなというふうに思います。

その中で、やはり、一番大きな原因のベースは少子化ですから、これから2025年までは何とか、2035年に向けて、大幅に子供たちが、高校生が減ってきますので、そうなりますと、今の私学への志向の流れ等を考えると、やはり、学校の統合といったことは、考えていかざるを得ないということだと思っております。

その上で、特色ある学校をしっかりと作っていく、育てていくということをやっていきたいというふうに思っております。

最後に魅力ある教員の確保が不可欠ということで、先ほどパンフレットについても触れていただきましたが、なかなか学校現場がですね、子供たちに授業はやらないかん、あれもせい、これもせいといろいろな事務仕事が増えてくるということで、ブラックと言われて久しいわけですがけれども、それではいけないので、やはり教員の働き方改革をしながら、子供たちに対して、しっかりと人材育成をしていただける、そういう教育現場の人材を確保していけるように、やはり、職場改革、働き方改革をやりながら、魅力のPRをしっかりとやっていきたいと思っております。

そういったことを着実にやっていきますので、よろしく願いいたします。

以上ですね、お一人お一人御意見をいただきました。

それでは、教育長、全体を通していかがでしょうか。

【教育長】

教育ビジョン2025の主要事業について、たくさんの御意見をいただきました。ありがとうございました。

コロナに関しては、緊急事態措置が継続する中、学校現場においても4月以降特に、この変異株の影響で感染者が多数出ました。ここのところ減少傾向にありますけれども、子供たちがストレスを感じやすい状態が続いております。学びを止めないという目標とともに、子供たちの心のケアに万全を期してまいりたいと考えております。

キャリア教育に関しても、御意見をいただきました。御指摘のとおり、高校進学の時点で、なかなか進学か就職か、決めきれない子も多数いるものと思っております。今後、県立高校のあり方を見直す中で、高校に入ってから自分の将来を決められるような、そういった総合学科でありますとか全日制単位制の学校など、様々なタイプの学校を運営できればと思っております。

また道徳教育にも御指摘がありました。教育ビジョンでは自らを高めること、社会の担

い手となることを基本として、かけがえのない生命や自分らしさ、そして多様な人々の存在を尊重する豊かな人間性、これらを育むということを目指しています。お話のありましたダイバーシティや、共生社会、SDGs、そういった理念を活かしながら、道德教育にもしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

また、魅力ある県立高校づくり、これは御指摘のありましたとおり、今年の入試では2,600人を超える欠員が出ました。多様な学びのニーズに、県立高校が十分に対応しきれていないという面、また県立ならではの学習内容の充実という面が、十分中学校に伝えられていないようなこともあったと思います。危機感をもって、魅力ある県立高校づくりを、早急に考えていかなければならないと思っています。しっかりと進めてまいりたいと考えております。

この教育ビジョンに掲げた様々な施策を着実に進めて、子供たちが多様性を尊重する豊かな人間性、知・徳・体の調和のとれた生きる力を育てていくため、しっかりとこの教育ビジョンを前に進めていきたいと思っております。

引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

【知事】

最後に、教育長から、委員の皆様から御意見をいただいたことについて、お答えいただきました。

特にですね、このコロナ禍であります。本当に去年の3月から3か月の臨時休校を経て、そして、昨年度は最初の2か月がないので、夏休みも冬休みも削りですね、学校行事も集約して、そして何とか年度内に授業を収めてやっていくということで、学校現場の皆様には負荷をおかけしました。

今年ですね、そういうことは絶対ないようにですね、しっかりとやっていきたいということで、今のところですね、5月、6月の第4波というのは、患者さんが増えて大変厳しい状況になりましたけれども、何とか学校現場の皆さんには頑張ってもらえるように取り組んできたかなと思っております。

緊急事態宣言中は、やはり宿泊を伴う修学旅行等を延期してもらわなければいけないのは致し方ないことでもありますけれども、この夏に向けて、高校生だといろいろな大会ですね、スポーツの大会、公式試合はやってもらっているということでもありますのでね。そういった形で、しっかりと取り組んでいきたいと思っておりますが、それでもですね、なかなか自由に立ち振舞っていただくわけには、まだまだしばらくいきませんので、引き続き、学校現場、教育現場で、子供たちにしっかりとケアしながら、また、それぞれ、これから特に高校3年生、中学3年生は、これから自分の進路を作っていくという大事な時期になりますから、勉強に、そして部活に、いろんなことを集大成する時期だと思っておりますから、しっかり寄り添って対応していただけるように、教育現場、教育委員会にはお願ひをしたいという

ふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、ちょうどお時間となりました。有意義な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

本日いただいた御意見を踏まえ、今後の愛知の教育行政を進めてまいりたいと考えております。

これをもって、愛知県総合教育会議を閉会といたします。

本日はどうもありがとうございました。